

第2学年 国語科学習指導案

1組 指導者 高島 紘司
男子16名 女子10名 計26名

- 1 単元名 見つけよう！海の生きものたちのかかわり合い
～だいじなところに気をつけて読もう～
「サンゴの海の生きものたち」

2 単元について

子どもたちは、1学期の物語文「ふきのとう」や「スイミー」では、場面ごとに登場人物の気持ちを考え、登場人物になりきり、うれしさや悲しさなどを音読に表す学習を進めてきた。説明文「たんぼぼのちえ」では、時間的な順序に気をつけながら、たんぼぼの知恵とその理由を読み取る学習をした。全体で話し合うことによって、様子を表す言葉や理由、強調などの文末表現に気づき、読み進めることができるようになってきた。そして、家の周りや近くの公園に咲いているたんぼぼを見つけ、観察を続け、たんぼぼの様子の変化が分かるように「たんぼぼ新聞」を書く活動にも意欲的に取り組むようになった。

2学期に学習した説明文「一本の木」では、事柄の順序に気をつけながら、木の描き方や木の様子について、叙述と絵とのつながりを考えて読み取る学習をした。また、枝の分かれ方や生え方について、「もっと多く」や「とちゅうから」という叙述に着目し、木の様子を考えながら話し合うことができるようになってきた。

本単元では、「大事な事柄に気をつけて、海の生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつこと」をねらいとする。

本教材は、文章の初めに、「どんな生きものたちが、どんなかかわり合いをしているのでしょうか。」という問いかけの文があり、課題を投げかけている。さらに、「たいへんなことになります。」や「びっくりしてしまいます。」という驚きを表す文で読み手を引きつけ、その後に「でも、～ではありません。」という文で安堵感が得られ、感動をもって読み進めることができる。また、2つの具体例から、生き物が互いに役に立っていることを読み取り、共生について考えながら読むことができる。そこで、初めの問いかけの文に着目して、答えを見つけようと、事柄の順序を考えながら読んでいくことで、生き物たちがどのようにかかわり合っているのかを理解できるようにしたい。そして、接続語「でも」が効果的に使われていることや「問い・答え・まとめ」という文章構成になっていることも気づかせたい。

本単元の言語活動として、音読、視写、書き込みを取り入れる。

音読では、叙述に着目して、大事な言葉や文を考えて音読をするようにしたい。そして、海の生き物たちのかかわり合いについて読み取るようにしたい。

視写では、生き物の様子やかかわり合いが分かる言葉を見つけたり、接続語に気づいたりして読むことができるようにする。

書き込みでは、かかわり合いが分かる言葉から自分が感じたことや思ったことを書くようにする。さらに、生き物の気持ちを吹き出しに書く。そうすることによって、子どもたちは、叙述に目を向けて、生き物のかかわり合いのよさを感じながら読み進めることができると考える。

3 研究主題との関連

仮説ア 子どもに付けたい力を明確にし、それに合った教材や言語活動を取り入れることによって、子どもたちは意欲的に教材とかがかわることができる。

<付けたい力>

本単元では、子どもたちに事柄の順序を考えながら、大事なことに気をつけて読むことができる力を身に付けさせたい。

<導入の工夫>

子どもたちがサンゴの海の生き物について知っていることはほとんどないと考えられる。そこで、水族館から借りてきた「サンゴの海に住む生き物の展示」を見る活動を十分に取り入れる。教材文に出てくるクマノミなどを実際に見ることで、サンゴの海に住む生き物の姿を知り、親しみを増すことができるだろう。また、サンゴの海に住む生き物についての本や図鑑を用意し、「海の生きものコーナー」を設けることで、海の生き物について関心を高めるようにする。

導入では、教材文の写真を拡大して掲示することで、海の中の生き物の様子について想像を広げる。その後「サンゴの海の生きものたち」の題名読みを行う。子どもたちは、実物を見たり、本で読んだりして知ったことや気づいたことを話し合うことで、さらに教材文への思いをふくらませることができるだろう。次に本文を読み、初発の感想を話し合い、問いの文に着目して、「互いに役に立つように、どのようにかかわり合って暮らしているのだろう。」という読みのめあてをもって読み進めたい。その際、「互いに役に立って」とはどのようなことなのか、子どもたちの生活経験から具体的に話し合い、理解できるようにする。

<教材とかがかわらせるための言語活動の工夫>

内容理解のために、音読を有効に活用したい。そこで、毎時間の初めに音読を取り入れる。繰り返していくことで、大事な言葉や文に気づくことができると思う。音読の際は、自分のペースで読むことによって、生き物の特徴や暮らしの様子を十分にとらえながら、教材文とのかかわりを深めることができると思う。

教材文を視写することで、言葉に気をつけて内容を把握できるようにする。大事な言葉や接続語「でも」や文末表現に目を向けさせたい。また、それぞれの生き物の様子について、色別のサイドラインを引き、どの生き物について書いた文か、考えながら読むようにする。

書き込みプリントでは、生き物たちのかかわり合いについて自分が思ったことを書くようにする。まず、かかわり合いが分かる言葉にサイドラインを引き、自分が思ったことを書く。そして、写真の吹き出しを設け、「生き物たちが話す言葉」を書く。そうすることで、守り合ったり助け合ったりするかかわり合いに気づくことができると思う。これらによって、「そうじをしてもらってありがとうと言っているのかな。」「お互いによいことをしているんだな。」などの自分なりの読みを明確にもつことができるだろう。また、本時では、「こうして、ホンソメワケベラと大きな魚はたがいに□□□□しているのです。」という文の□□□□にどのような言葉が入るかを書くことで、生き物たちの共生について考えることができるようにしたい。

仮説イ 互いの考えのよさや異同に目を向けて話し合うように支援を工夫することによって、子どもたちは主体的にかかわり合い考えを深め合うことができる。

<大型模型とペープサートの活用>

第2次のイソギンチャクとクマノミ、ホンソメワケベラと大きな魚のそれぞれの特徴とかかわり合いについて読み取る活動では、動作化を取り入れる。その際、大型模型とペープサートを利用する。全体では、大型模型を使った動作化を行う。『ホンソメワケベラが大きな魚に食べられることがないこと』や『口の中だけではなく、体に付いた虫も食べること』を叙述で確認しながら理解することができると思う。ペアの活動では、ペープサートを使う。「きれいにそうじするから、口の奥までそうじしてあげるよ。」や「虫を食べさせてもらって、ありがとう。」などと、会話しながら動作化する。生き物たちが互いに役立って暮らしていることを感じ取ることができるようにしたい。

<考えをかかわらせる話し合い活動の工夫>

生き物のかかわり合いの様子について話し合いを行う。その際、様子を表す言葉や接続語、文末表現に着目するように、音読を効果的に活用していきたい。部分音読を取り入れることで、叙述に着目して話し合いを進め、読み取ることができるようにする。

また、「そうじ魚」という言葉についての話し合いでは、「ホンソメワケベラはそうじが好きなのかな。」と切り返しの発問をする。そうすることによって、『ホンソメワケベラにとっては食べ物が得られる』、『大きな魚にとっては体や口をきれいにしてもらえる』ということに気づき、お互いに利益となるように暮らしていることを理解できるようにしたい。また、「こうして、ホンソメワケベラと大きな魚はたがいに□□しているのです。」という文の□□にどのような言葉が入るかを考え、その根拠を話し合うことで、友達の考えとの異同に目を向けて、意見をかかわらせて話し合うことができるようにしたい。

仮説ウ 国語科で学習した表現力や理解力を生かす場を工夫することにより、言葉を大切にし、よりよい言語生活を築いていこうとする態度を身に付けることができる。

<学習したことを生かして表現する場の工夫>

第3次では、「見つけた！海の生きものたちのかかわり合い発表会を開こう」と投げかける。第2次での生き物のかかわり合いを読み取る学習を生かして、他にもどのような生き物のかかわり合いがあるのかを調べ、発表する活動を行う。まず、生き物の名前や体の特徴、かかわり合いを絵と文でまとめる。その際、これまでの学習を生かして、様子を表す言葉や接続語、文末表現などを取り入れて文を書くように助言する。

次に、発表会を行う。「問いかけ・紹介・まとめ」の構成で、4、5人のグループで行う。問いかけとまとめの言葉は、あらかじめ教師が決めておく。紹介の文を読むときは、大事な言葉をはっきり読み、聞いている人が分かりやすい発表ができるようにする。そのために、グループ練習では、お互いの発表を聞き合う場を設けることで、自信をもったり、友達のよさを自分に取り入れたいようにしていきたい。

4 単元の目標と評価規準

目 標	国語への関心・意欲・態度	読む能力	書く能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・「サンゴの海の生きものたち」がどのようにかかわり合っているのかを読み取り、共生の仕組みの不思議に興味をもつ。 ・海の生き物について調べ、生き物カードを作って交流する。 	教材文に興味をもち、進んで読もうとしている。 本や図鑑を読み、海の生き物のかかわり合いを探そうとしている。	生き物が互いに役に立っていることを、事柄の順序を考えながら読んでいる。 語や文のまとめりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読んでいる。	本を読み、事柄の順序を考えながら、生き物のかかわり合いを書いている。	主語と述語の関係に注意して、正しく文章に使っている。

5 全体計画（12時間 本時 7 / 12）

次	時間	学習活動	ねらい	評価の観点				学習活動における 具体的評価規準（評価方法）	支援内容
				関意	読む	書く	言語		
1	1 2	<学習の見直しをもつ> ・写真からイメージをもち、題名読みをする。 ・全文の範読を聞く。 ・新出漢字・語句の確認をする。 ・初発の感想を書き、発表し合う。 ・読みのめあてを知る。	・教材文に興味をもって読み進めることができる。 ・教材文の内容の大体を読み取り、読みのめあてをつかむことができる。					海の中の生き物の様子を想像しながら、教材文についての思いや興味をふくらませている。（態度、音読） 教材文を読んで、初めて知ったことや不思議に思ったことなどを発表しようとしている。（発言、態度）	・教材文の写真を用意し、海の中の様子を想像して自分の考えを発表したり、音読したりできるようにする。 ・音読する時間をしっかり確保し、内容の大体をつかむことができるようにする。 ・驚いたことや疑問に思ったことを自分の知識とかかわらせて発表することで、関心をもつことができるようにする。 ・「生き物たちのかかわり合いを見つけよう。」と投げかけ、読みのめあてをもつことができるようにする。
2	3 4 5 6 7 8	<大事なところに気をつけて読み取る> 第1段落を読み、「問い」の文を見つけ、内容の大体をとらえよう。 クマノミとイソギンチャクのかかわり合いについて書き込みをしよう。 クマノミとイソギンチャクは、どんなかかわり合いをしているのだろう。 ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて書き込みをしよう。 ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかわり合いをしているのだろう。（本時） 海の生き物のかかわり合いについてまとめ、グループで役割音読をしよう。	・事柄の順序を考えながら、叙述に即して読むことができる。				「問い」の文からその答えを見つけて、内容の大体を読んでいる。（発言、音読） 叙述に即し、事柄の順序を考えながら、生き物の体の特徴とかかわり合いを読み取っている。（発言、書き込みプリント、ワークシート） 語や文のまとめりや内容、言葉の響きなどについて考えながら声に出して読んでいる。（発言、音読）	・「問い」の文中の、互いにかかわり合う関係について、生活経験をもとに具体的に考えるようにする。 ・書き込みの視点を明確にすることで、自分の読みをもつことができるようにする。 ・書き込みプリントの写真に吹き出しを入れて、叙述と関連させてかかわり合いの様子を読み取ることができるようにする。 ・話し合いの中に部分音読を取り入れ、考えと叙述を結び付けながら話し合いを進められるようにする。 ・全体の話し合いの中で模型を使ったり、ペアでペープサートを使ったりして、生き物の様子を動作化することによって、叙述に着目し、かかわり合いを読み取ることができるようにする。 ・生き物たちのかかわり合いの様子や会話を話し合うことで、かかわり合いについて読み深めることができるようにする。	
3	9 10 11 12	<見つけた！海の生きものたちのかかわり合い発表会> ・海の生き物についての本や図鑑を読み、紹介したいと思う生き物とそのかかわり合いを決める。 ・カードに生き物の絵を描き、特徴やかかわり合いを文でまとめる。 ・グループで読み合い、よいところを見つけたり、もっと分かりやすく発表するためのアドバイスをし合ったりする。 ・海の生き物のかかわり合い発表会を開き、グループで自分たちの調べた海の生き物たちのかかわり合いを紹介する。	・紹介したい生き物について絵や文でまとめることができる。 ・大事な言葉をはっきり読むことができる。				本や図鑑を読み、海の生き物のかかわり合いを探そうとしている。（態度、カード） 本を読み、事柄の順序を考えながら、生き物のかかわり合いを書いている。（態度、カード） 主語と述語の関係に注意して、正しい言葉を文章に使っている。（態度、カード）	・海の生き物についての関連図書を用意し、子どもたちが生き物紹介カードを書く際の参考にできるようにする。 ・知らせたいことを決めて、書くことができるようにする。学習したことを生かして、分かりやすく書くように助言する。 ・グループで練習をし、互いにアドバイスをし合い、互いのよさを取り入れることができるようにする。 ・聞いている人が分かりやすいように、大事な言葉をはっきり読むように助言する。	

6 本時の学習(7/12時)

(1)ねらい

- ・ ホンソメワケベラと大きな魚のかかり合いの様子やその理由を話し合い、正しく読み取ることができる。

(2)展開

学 習 活 動	教師の支援(は評価)
<p>ホンソメワケベラと大きな魚は、どんなかかり合いをしているのだろう。</p>	
<p>1 第7・8・9段落を各自で音読する。</p> <p>2 ホンソメワケベラと大きな魚のかかり合いについて話し合う。 叙述をもとに、かかり合いの様子について話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="156 562 375 600" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ホンソメワケベラ</p> </div> <div data-bbox="544 562 671 600" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>大きな魚</p> </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="172 600 459 1153"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな魚の口の中や体について虫をもらっているよ。 ・ 虫がホンソメワケベラの食べ物になるんだよ。 ・ いっぱい食べたいから、一生懸命そうじをしているよ。 ・ 大きな口の中に入るのはこわそうだな。「でも」食べられることはないから安心して入っているよ。 ・ ホンソメワケベラは「そうじ魚」って呼ばれているよ。 </div> <div data-bbox="491 786 539 974" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>か か わ り あ い</p> </div> <div data-bbox="571 600 906 1189"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホンソメワケベラに、口の中をそうじしてもらっているよ。 ・ 口の中だけじゃなくて、体について虫もとってもらっているよ。 ・ 口の中や体をきれいにしてもらって、すごく気持ちよさそうだな。 ・ 口をずっと開けているのは大変だけど、きれいにそうじしてもらえることを知っているから我慢しているんだと思うよ。 ・ 口を開けてじっとしているだけで、体中がきれいにしてもらえるよ。 </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>かかり合いながら、どんなお話をしているのかな？</p> </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <p>ペープサートでかかり合いの様子や会話を話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="156 1355 375 1393" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>ホンソメワケベラ</p> </div> <div data-bbox="571 1355 699 1393" style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>大きな魚</p> </div> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="172 1393 475 1601"> <ul style="list-style-type: none"> ・ たくさん虫を食べさせてくれて、お腹がいっぱいになったよ。 ・ ぼくのためにずっと口を開けていてくれて、ありがとう。 </div> <div data-bbox="491 1444 571 1556" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>か か わ り あ い</p> </div> <div data-bbox="571 1393 906 1568"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体中をきれいにしてくれて、ありがとう。 ・ 口の中までそうじしてくれたから、すっきりして、気持ちよくなったよ。 </div> </div> </div> </div> <p>3 かかり合いについてワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どちらもよいことをしてあげているから、「なかよく」しているね。 ・ 虫を食べさせてもらったり、そうじしてもらったりしているから、「助け合って」だと思うよ。 ・ 「協力」だと思うよ。わけは、友達みたいに助け合って、協力しているからだよ。 <p>4 今日の学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2つの魚が助け合っているから、本当にいい仲間だね。 ・ 自分にとって、他の魚にとっても役に立っているんだね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一つ一つの言葉をはっきり発音するように助言し、聞きやすい音読ができるようにする。 ・ 事前にホンソメワケベラと大きな魚の言葉を書き込みプリントに書いておく。 ・ そうじしている様子を、ホンソメワケベラと大きな魚の模型を使って動作化して、話し合う。そうすることでホンソメワケベラが口の中だけでなく、体のまわりまでそうじしている様子を読み取ることができるようにする。 ・ 動作化の中で、ホンソメワケベラが大きな魚に食べられてしまう場面を作り、接続語「でも」に着目させる。そして前を否定する働きを理解することができるようにする。 ・ 考えの根拠となっている叙述を部分音読したり、板書に位置づけたりして、叙述をもとに、かかり合いを読み取ることができるようにする。 ・ 「そうじ魚」という言葉に着目している子どもの意見を取り上げ、「ホンソメワケベラはそうじが好きなのかな。」と切り返しの発問をし、ただそうじしているのではなく、大きな魚にとってはそうじをしてもらえる、ホンソメワケベラにとっては食べ物がもらえるという、互いに利益があることに気づくことができるようにする。 ・ 生き物の気持ちを考え、会話しながら動作化することで、互いに役に立っていることを確認できるようにする。 ・ ワークシートに『こうして、大きな魚とホンソメワケベラはたがいに、 いるのです。』の にはどんな言葉が入るか。』を考え、書くことで、互いに助け合っている関係を理解できるようにする。 ・ 振り返りカードに、分かったことや思ったことを書き、生き物のかかり合いのよさに興味をもち、次時への意欲をもつことができるようにする。 叙述に即し、生き物の体の特徴と助け合いを読み取っている。(発言、ワークシート)

